

北陸管内における教育ファーム取組事例の分類について

| | 推進主体 | 授業として体験 | 支援体制 | | 取組内容 | | | 特徴 | 取組の成果 | 今後の課題 | テーマ | | | | |
|-------------|------|----------------------------------|---|--|---------------|--------|----------------|---|--|--|-------------|-------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| | | | 財政支援 | 連携団体 | 作物 | 工程数 | 対象者 | | | | 「農業」への関心と理解 | 「食」と命の大切さ・食文化への理解 | 家族のコミュニケーションの場の提供 | 地域コミュニティの再生・活性化 | 自らが考える醸成等の学習効果 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校が主体となった取組 | 1 | 上越市立 大手町小学校 (新潟県) | | 稲作農家 県栄養士会 青果会社 寿司屋 フードアドバイザー 北陸農政局 | 米 野菜 養鶏 | 2 | 小学5年生 | 自ら栽培した米、野菜を調理し、自給率39%の現状を実感しながら、食糧事情の問題を認識し「食べるということ」の意味を探り、自給自足の体験学習を行った。 | ひもじい思いをし、自分を取り巻く食の環境が不安な状況下にあることを実感することができた。これまでの農作業体験を通して、食のありがたさ、食べることの大切さを痛感できており、偏食の改善にもつながった。 | | | | | | |
| | 2 | 上越市立 高志小学校 (新潟県) | | 稲作農家 | 米 野菜 養豚 | 4 | 小学5年生 | 農家から指導を受けて、種籾から米作りを始めた。9月からは2頭の豚の世話をしている。自分で春祭りをしようと計画。収穫したお米の半分(30キロ)を文化祭でおにぎりにして販売。自分たちの米のパンフレットを作る。値段は、お客さんに決めてもらうことに。 | 食べ物が自分の口に入るまで、どれだけの人やものが関わっているかということに、子どもたちが気づき、自らの「食べる」を見つめ直した。米を作るだけでなく、地域の方々に販売することで、「ものを買っていただくことの困難さ」、いわゆる「お金を稼ぐことのきつさ(親のありがたさ)」を体験できている。 | | | | | | |
| | 3 | 新潟市立 新通小学校 (新潟県) | 新潟市より補助 (個人負担なし) | 市 JA 学校校区 | 米 | 2 | 小学5年生 | 稲刈り後は生産者から調整までをお願いし、玄米の状態です学校が受け取り、全校生徒の給食に供した。 | 「農業」を体験することで理解と興味が深められた。「食」についても関心が深まり、様々なテーマへの発展のきっかけとなった。生命力を実感し、食べ物の大切さを感じ取った。 | 管理作業について抜けており、今後はどう補っていくかが課題。 | | | | | |
| | 4 | 上越市立 北諏訪小学校 (新潟県) | 上越市教育委員会 参加者負担 5年生2,000円/年 体験代 2年生300円/1回 野菜苗代 | 農林漁業者 JA | 米 野菜 | 4 2 | 小学2年生 小学5年生 | 2年生：継続的に野菜の生長を観察しながら、水やり、支柱立て他の作業を行ってきた。5年生：無農薬栽培に取り組んだ。雑草の処理に苦労した。 | 実際に農業体験をしたことで、農作業のそれぞれの意味や農作業の大変さを体感し、食糧生産を見直すきっかけとなった。 | 収穫した米について、「作る」「味わう」「販売する」活動を通し、「日本の農業や食」「自分の食」と結びつけて考えていけるようにする。農業体験を今後、どのように生かしていくかが課題。 | | | | | |
| | 5 | いなみ キッズファーム (富山県井波 小学校) | 富山県及び南砺市より 補助(個人負担なし) | 県 (砺波農業普及 センター) 市町村 農林漁業者 JA | 野菜 その他 | 3 | 小学3年生 | 大豆の播種から管理、収穫作業まで。作業の様子をビデオ撮影し、給食時間に放送したり、ケーブルテレビにて放映。 | 関わった農産物のみならず、野菜などの産物に興味関心が深まった。協力頂いた農家の方々から、子ども達の頑張りから自分たちに頑張る意欲が起った。 | 農業体験のほ場の設定時に、学校内の理解と協力が必要。関係機関の支援も必要。両者を結びつけ、つながりを組織化する方策を検討したい。 | | | | | |
| | 6 | 金沢市立 湯涌小学校 (石川県) | 石川県、金沢市より 補助(個人負担なし) | 県 市町村 農林漁業者 JA | 米 野菜 | 3 2 | 全校児童 | 昔ながらのわくころがし、田植えから管理、収穫、成長管理、フェンス干し、脱穀作業を体験。 | 栽培体験だけでなく、加工体験、報告会等も行い、より農業について理解を深めた。 | 財政的な支援が無くなってもこの取組を継続させることが課題。 | | | | | |

北陸管内における教育ファーム取組事例の分類について

| | 推進主体 | 授業として体験 | 支援体制 | | 取組内容 | | | 特徴 | 取組の成果 | 今後の課題 | テーマ | | | | |
|----------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------------------|---|----------------------------|-------------|---------------------------------------|---|---|---|-------------|-------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| | | | 財政支援 | 連携団体 | 作物 | 工程数 | 対象者 | | | | 「農業」への関心と理解 | 「食」と命の大切さ・食文化への理解 | 家族のコミュニケーションの場の提供 | 地域コミュニティの再生・活性化 | 自らが考える醸成等の学習効果 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校が主体となった取組 | 7 石川県能美市立辰口中央小学校（石川県） | | 小学校の総合学習時間として取り組んでいるため予算、補助無し | 市町村 農林漁業者 JA 北陸農政局 | 米 | 2 | 小学5年生 | 田植え、稲刈り。バケツ稲栽培にも取り組んでいる。用水路や育苗ハウスの見学を取り入れている。 | 農業体験、学習、発表会を繰り返す打ちに、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への理解を深め、感謝する気持ち、食べ物を大切にすることが育ち、学校給食でも食べ残しが減り、児童の食・農に対する理解力が深まった。 | 学校教育現場としては、担任の異動により毎年同じカリキュラムにはなりにくい。 | | | | | |
| | 8 福井県美浜町新庄小学校（福井県） | | 福井県及び美浜町より補助（個人負担なし） | 県市町村 農林漁業者（地域農業グループ） | 米 野菜 しいたけ | 2 2 2 | 全校児童 | 手作業と機械作業の両作業を体験。 | 子ども達の保護者より技術や知識を身につけている。 | 農業体験で学んだことを発表する能力を育成していく。 | | | | | |
| | 9 福井県小浜市立松永小学校（福井県） | | 小浜市より補助金 JAわかさ及びPTAより援助（個人負担なし） | 県 小浜市 松永地域 | 米 野菜 いも類 豆類 花き | 4 | 全校児童 | 足踏み脱穀機や千歯こきを使った脱穀体験。食糧難や飢えに苦しむ国々の社会学習。 | 働くことの苦労や喜びを学んだ。自然に関心を持ち、ふるさとを愛し誇りを持てた。 | 農業体験により何を学ぶかを明確化。活動経費の確保。農業体験学習を食の教育にどう有機的につなげていくか。 | | | | | |
| 地域が主体となった取組 | 10 山崎興野保全隊（新潟県） | | 国より補助 新潟県より補助 新潟市より補助（個人負担なし） | 学校 構成員（山崎興野農家、山崎興野自治会、水土里ネット白根郷、山崎興野子ども会、山崎興野老人会、JA） | 米 さつまいも 景観植物 | 4 2 | 小学3年生～6年生 | 田んぼや水路の生き物調査や5年生を対象に稲作体験（田植えから刈り取りもみすりまで一連の作業）を実施。さつまいもの定植、収穫体験も実施。 | 事業を通じて地域の連携が深まり一体感をもてた。稲作の一連の作業を体験し、達成感と収穫の喜びを実感した。 | 地域全体の協力体制を作り上げたい。 | | | | | |
| | 11 深谷農地・水・環境保全管理組合（富山県） | | 国より補助 富山県より補助 富山市より補助（個人負担なし） | 深谷地域 | 米 さつまいも とうもろこし | 2 2 2 | 地区内全児童及び保護者 | 全戸へビラを配布し参加募集した。 | 環境保全への取組意識の高まり。農業体験により家族、地域連携の高まり。 | 校区内外の「食育サポーター」の設立が期待される。 | | | | | |
| | 12 北蟹谷放課後子ども教室推進事業（富山県） | | 公民館から補助 300円/参加1人の個人負担 | 農林漁業者 JA その他 | りんご さつまいも | 3 2 | 地区内全児童 | 摘果、袋掛け、収穫の体験。早生品種の選別作業の見学。 | 生産過程と生産に携わる方の苦労を実感した。 | さらに、地域の自然の中での生産体験に興味・関心を持ってもらいたい。 | | | | | |
| | 13 たんぽにお絵かき実行委員会（富山県） | | 砺波市より補助（個人負担なし） | 学校 農林漁業者 JA | 米 | 2 | 幼稚園児及び保護者 | 種類の違う苗を使用。 | 子どもの会話にたんぽの話題が出る。 | 小学生を含む地区全体の取組への発展。 | | | | | |
| 14 石川県農業協同組合中央会（石川県） | | 中央会より1/2補助 石川県より1/2補助 | 県 学校 JA 市町村 | 米 | 4 | 小学生 | JA職員の指導のもと、田植えから見ず管理、観察、稲刈り、脱穀の一連の作業。 | 米作り体験を通じて、食の大切さも学んだ。 | 今後は助成を受けずに継続できるように、地元農家との協力が必要。 | | | | | | |

北陸管内における教育ファーム取組事例の分類について

| | 推進主体 | 授業として体験 | 支援体制 | | 取組内容 | | | 特徴 | 取組の成果 | 今後の課題 | テーマ | | | | |
|-------------|------|------------------------------------|--|-----------------------|---------------------------------|-----|-----------|---|--|---|-------------|-------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| | | | 財政支援 | 連携団体 | 作物 | 工程数 | 対象者 | | | | 「農業」への関心と理解 | 「食」と命の大切さ・食文化への理解 | 家族のコミュニケーションの場の提供 | 地域コミュニティの再生・活性化 | 自らが考える醸成等の学習効果 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域が主体となった取組 | 15 | 荒川町農業委員会 (新潟県) | 荒川町農業委員会より補助 (個人負担なし) | 県市町村学校 JA 農林漁業者 | 米 大豆 さつまいも 野菜 | 2 | 小学生及び保護者 | 田植え、稲刈り 定植、収穫 | 野菜については、個人消費区画、販売区画に区分し、農業の持つ経済的側面を意識。 | 新規の加入が少ないため募集方法の検討。 | | | | | |
| | 16 | 田んぼの楽校 (富山県) | (独)国立青少年教育振興機構より補助 1日参加1,000円・中学生以下500円(個人負担) 全日程参加10,000円・中学生以下6,000円(個人負担) | その他(森のゆめ市民大学) | 米 | 3 | 小学生及び保護者 | 農作業を中心に自然体験をする。 | 良い自然体験の場となっているようで、参加者からの紹介で新しい参加者が増えている。 | スタッフの充実。 | | | | | |
| | 17 | 「きっず・ファーム」 五十里ふれあい農園組合 (富山県) | 富山県より補助 黒部市より補助 500円/親子1組(個人負担) | 県市町村 | さつまいも すいか 野菜 | 2 | 小学生及び保護者 | 親の世代にも食、食農の大切さを伝えていくため、親子での参加を基本とする。 直売所との連携イベントの開催。 | 体験により農業の大変さ、農産物の大切さを実感し、農業への理解を深めた。 | 一年を通じた体験企画の充実を図るため、指導者の確保・育成のための研修と管理省力化のために機材の導入が必要。 | | | | | |
| | 18 | わかばキッズクラブ (石川県) | JA能登わかば 8,000円/年間(個人負担) | 石川県七尾市鹿島郡中能登町 | 米 スイカ 野菜 赤土じゃがいも 大豆 | 2 | 小学2年生～4年生 | 一年を通して米作り、野菜作り、大豆づくりと毎月なんらかの農業体験ができる。 | 農業の厳しさや食べ物大切さ、自分たちの地域の野菜を知り、伝統食や地域の文化を学んだ。 | 地域の小学校ともかかわりながら、地域ぐるみで活動していきたい。 田んぼの生き物調査など、環境についても取り組みたい。 | | | | | |
| | 19 | 角間の里山・子ども農業体験学校 (石川県) | (独)国立青少年教育振興機構より補助 2,000円/年会費(個人負担) | 市民ボランティア | 米 野菜(50種類、70品種) | 2 | 小学生及び保護者 | わくころがしによる手植えなど、昔ながらの米作りにこだわった方法。 | 食と農について考えるきっかけになった。 棚田の復元により、谷の生物多様性が高くなった。 | 野菜作りに詳しい里山メイトの増員が必要。 | | | | | |
| | 20 | 鴨池たんぼクラブ (石川県) | 1年おき実施 加賀市より補助(個人負担なし) | 県市町村学校 JA 農林漁業者 | 米 | 3 | 小学生及び保護者 | 乾燥したもみを昔の足ふみ脱穀機を使用し脱穀。 | 農作業の苦勞と自然環境に関心を持たせた。 落ち籾や二番穂の提供によりガンや鴨の休息地として環境の復元となった。 | 越冬するカモ類の餌場として環境維持。 | | | | | |
| | 21 | うえるかむキッズファーム (福井県) | JAより補助 大野市より補助 1,500円/1人(個人負担) | 市町村農林漁業者 | 野菜 | 2 | 小学生及び保護者 | 栽培から流通までの一貫した農業体験。 | 農業の大切さと収穫の喜びを楽しく学んだ。 | 農作業体験中の穂 | | | | | |
| | 22 | NPO法人田んぼの学校越前大野 (福井県) | NPO一部負担 大人1,000円/1人 500/1人 | 任意団体 | 米 | 2 | 児童及び保護者 | 田植え、稲刈りの他にサトイモの収穫体験。 | 農業体験と併せて水生生物調査、水質調査を行い自分たちの住んでいる自然に対して理解を深めた。 | さらに地域密着型の活動を進め、郷土を愛する心を育む活動を進めたい。 | | | | | |

北陸管内における教育ファーム取組事例の分類について

| | 推進主体 | 授業として体験 | 支援体制 | | 取組内容 | | | 特徴 | 取組の成果 | 今後の課題 | テーマ | | | | |
|-------------|------|-----------------------|--|----------------------------------|---------------|-----|--------------------|--|---|--|-------------|-------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| | | | 財政支援 | 連携団体 | 作物 | 工程数 | 対象者 | | | | 「農業」への関心と理解 | 「食」と命の大切さ・食文化への理解 | 家族のコミュニケーションの場の提供 | 地域コミュニティの再生・活性化 | 自らが考える醸成等の学習効果 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域が主体となった取組 | 23 | NPO法人「食糧ネットささかみ」(新潟県) | NPO法人及び生協で一部負担で宿泊費、旅費について参加者自己負担 阿賀野市より補助 | 市町村 JA、 農林漁業者 | 米 | 2 | 児童及び保護者 | 田植え、稲刈り サマーキャンプなどを取り入れた交流ツアー。 | 生産地と消費者団体の相互交流が進み、信頼を構築。 生協、JAの枠を越えた環境保全運動の輪が広がった。 | 消費者側のペースで(都合の良い時に)農作業が出来るようにしたい。 | | | | | |
| | 24 | 都市消費者交流事業実行委員会(新潟県) | 五泉市より補助 都市消費者交流事業実行委員会(五泉市)より補助 田植5,000円稲刈り7,000円(個人負担) | 市町村 JA 農林漁業者 | 米 | 2 | 一般消費者 | 農業体験対象者は横須賀市衣笠地区商店街。 田植、稲刈り、郷土料理の食事 | 米の通年販売 郷土芸能の交流 | 農家への体験宿泊の受入体制の整備。 | | | | | |
| | 25 | 別保コミュニティ振興協議会(新潟県) | 田んぼの分校より補助 参加費1,000円/1日 中学生以下500円/1日 10,000円/全日程 中学生以下6,000円/全日程 | 学校 農林漁業者 | 米 野菜 | 3 | 地区内小学生及び地区外児童及び保護者 | 田植、草取り、稲刈り、はさがけ、脱穀。 指導は県の資格(体験交流指導官)を持った農家。 野菜は棚田周辺の遊休農地を利用。 | 地域の良さを再認識し、ふるさとを誇りに思う気持ちを養えた。 農業、農村、地域に関心を持ち、地域を見直すきっかけとなった。 | 「農地・水・環境保全向上対策」の共同活動とエコファーマーによる環境保全型農業について理解を深め、地域一丸となった取組を進めていきたい。 | | | | | |
| | 26 | グリーンハウス里美(新潟県) | 個人負担のみ | 県市町村 学校 JA 農林漁業者 NPO | 米 | 1 | 都市の小学生、中学生、大学生 | 田植え体験と棚田の保全を学ぶ。 | 地域の活性化につながった。 | 農村集落・地域コミュニティ機能の維持。 | | | | | |
| | 27 | 越後田舎体験推進協議会(新潟県) | 上越市より補助 十日町市より補助 1泊10,000円(個人負担) | 市町村 | 米 野菜 果物 | 2 | 小学生 中学生 高校生 | 参加者の希望により、稲刈りのみといった単一作業体験も実施。 | 地域の優しさを感じ取り、また、農作業の大変さ恩恵、食文化への理解を深めた。 | 体験プログラムメニューの拡大。受け入れに関わる地域の人材育成・質の向上。 2作業2日以上体験する「教育ファーム」の取組となるよう、利用者に活用を期待する。 | | | | | |
| | 28 | 上市町町民農園(富山県) | 富山県より補助 上市町より補助 1区画3,000円 | 県市町村 学校 JA | 野菜 | 2 | 小学生及び町内一般消費者 | 枝豆菜場については、学校の授業の一環として取り組んでいる。 | 自らが育てたものを食べることに より「食」への関心を深めた。 | 調理体験なども取り入れていきたい。 ふるさとの食材にふれあう機会を検討。 | | | | | |
| | 29 | 氷見市棚田保全推進会議(富山県) | 氷見市より補助 1区画30,000円(個人負担) コシヒカリ40kgと地元特産品付き | 県市町村 JA 農林漁業者 | 米 | 2 | オーナー家族(親子) | むかしながらの米作り体験 | 中山間地における農業への理解を深めた。 オーナー事業がマスメディアで紹介され、氷見市のイメージアップへつながった。 | 依然として他の区域では耕作放棄が進んでおり、オーナー制度の拡充が求められるが、地域の意志決定、経費面の確保、労働力の確保等、問題をクリアする。 | | | | | |
| | 30 | 神子原棚田保全協議会(石川県) | 石川県より補助 羽咋市より補助 1口30,000円(個人負担) 玄米40kg保証 | 市町村 | 米 | 2 | オーナー家族(親子) | 田植え、稲刈り、はざ掛け | 食への関心を深めた。 神子原米のPRと棚田オーナー制度の普及ができた。 | 地域のさらなる活性化を目指す。 | | | | | |

北陸管内における教育ファーム取組事例の分類について

| | 推進主体 | 授業として体験 | 支援体制 | | 取組内容 | | | 特徴 | 取組の成果 | 今後の課題 | テーマ | | | | |
|-------------|----------------------------------|---------|--|-------------------------|---------|-----|----------------|---|---|---|-------------|-------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| | | | 財政支援 | 連携団体 | 作物 | 工程数 | 対象者 | | | | 「農業」への関心と理解 | 「食」と命の大切さ・食文化への理解 | 家族のコミュニケーションの場の提供 | 地域コミュニティの再生・活性化 | 自らが考える醸成等の学習効果 |
| | | | | | | | | | | | | | | | |
| 地域が主体となった取組 | 31 高須城山棚田 オーナー委員会 (福井県) | | 1区画30,000円 (個人負担) コシヒカリ40kg付き | 県 市町村 JA 農林漁業者 | 米 | 3 | オーナー家族 (親子) | 農村文化の体験や自然環境に親しんだり、農業体験のみにとどまらず、地域をまるごと体感できる取組。 | 山間地域の農作業の苦労や水田に生息する生き物の存在を知り、農業や食の安全を見直すきっかけとなった。 棚田オーナーは年々増加傾向にあり、畑の借り受けによる野菜栽培の希望者も増え、着実に地域が活性化してきている。 | 高齢化が進んでおり、後継者の育成や活動内容の充実など受け入れ体制の強化を図っていく。 | | | | | |
| | 32 ファーム ハウスコムニタ (福井県) | | 1区画20,000円 (個人負担) | 無し | 野菜 | 2 | オーナー家族 (親子) | 借り主が主体的に作物栽培に取り組む。 | 池田町外や県外から訪れる方々がおり、農村と都市の交流の場も持てた。 池田町をアピールする場となった。 | 経営面、労力面で、理想と現実の壁がある。今後は事務教体制を整理し、地域の人たちと連携していく。 | | | | | |
| | 33 口ハス越前 (福井県) | | 福井県より補助 越前市より補助 1区画: 田んぼオーナー12,000円 大豆オーナー11,000円 そばオーナー5,000円 | 県 市町村 学校 農林漁業者 | 米 野菜 | 2 | オーナー家族 (親子) | 観光社をとおしてツアーとして募集。 | 参加者と市域との交流が増え地域が活性化してきている。 | 農業をさらに活性化させ、継承していく。 文化の継承を含めた体験メニューを考えたい。 受け入れ農家を増やす。 | | | | | |